

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産研究費

事業名 子持ちアユ生産支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

水産研究所 試験研究部 電話番号：0586-89-6352

E-mail : c24101@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 3,100 千円 (前年度予算額) 2,792 千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	2,792	0	0	0	2,792	0	0	0
要求額	3,100	0	0	0	3,100	0	0	0
決定額	3,100	0	0	0	3,100	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- 当所では、性転換雄の精液（以下「全雌化精液」という）を利用して、雌アユだけを生産できる技術を開発した。
- 雌アユは、子持ちアユとして利用されるが、単価が高いため養殖業者は通常のアユより高収益があげられる。
- 県内養殖業者より強い要望があったため、「全雌化精液」を安定供給することにより、雌アユだけの生産を支援し、県内養殖業者の収益の向上を図ることを目的として平成20年度より本事業を実施している

(2) 事業内容

県内需要を満たす性転換雄アユを生産し、全雌化精液を県内民間養殖場に販売する。

【歳入】 4,290千円（「全雌化精液」 1,300ml を販売予定）

【歳出】 3,100千円

(3) 県負担・補助率の考え方

全雌化精液の生産に必要な事業費は、全額精液の販売による歳入を充当する。

(4) 類似事業の有無

魚類精液販売に関する類似事業はない。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
需用費	2,820	生産に必要な消耗品、ポンプ用電気代、飼料費
役務費	280	全雌化精液の委託販売手数料、廃棄物の手数料、郵便料金
合計	3,100	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想中間見直し III-1-(2) 未来につながる農業づくりの中で、アユ養殖の生産振興の必要性が指摘されている。

(2) 国・他県の状況

全国的にもアユ精液の販売・流通は皆無である。

(3) 後年度の財政負担

財政負担はない。

事業の継続については、県内生産者からの要望を聞きながら判断していく

(4) 事業主体及びその妥当性

現在、日本国内で「全雌化精液」の生産できる機関は、水産研究所のみである。「全雌化精液」の流出を防ぎ、品質の良い「全雌化精液」を安定供給するためにも、事業は水産研究所で実施するのが妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

付加価値の高い子持ちアユの効率的生産を通じて、県内アユ養殖業の価格競争力を高めるとともに収益性を向上させることにより、県内のアユ養殖生産量を増加させ、アユ養殖業の振興を図ります。

○長期構想

II ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

2 儲かる農業・林業・畜産業を実現し、持続可能な農山村をつくる

○ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）

養殖量(t)※現状値：1,205t → 令和12年：1,225t

アユ養殖生産量(t)※現在地：882t → 令和12年：897t

全雌アユ生産量(t)※現在地：232t → 令和12年：234t

現状値：令和2年から令和6年までの5年間中最大値と最小値を除く3年分の平均値

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H20)	R4年度 実績	R5年度 実績	R6年度 実績	終期目標 (R12)	達成率
①アユ養殖生産量	478.5t	861t	900t	885t	897t	99%
②全雌アユ生産量	82.5t	186t	254.5t	256.3t	234t	110%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の民間アユ養殖業者から要望に応じて全雌化精液を安定供給できるよう に、全雌化精液を搾出できる特殊な雄アユを作出し養成しました。 ・800mLの全雌化精液を県内民間養殖場に供給しました。
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の民間アユ養殖業者から要望に応じて全雌化精液を安定供給できるよう に、全雌化精液を作出できる特殊な雄アユを作出し養成しました。 ・1,180mLの全雌化精液を県内民間養殖場に供給しました。
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の民間アユ養殖業者から要望に応じて全雌化精液を安定供給できるよう に、全雌化精液を作出できる特殊な雄アユを作出し養成しました。 ・1,570mLの全雌化精液を県内民間養殖場に供給しました。

指標① 目標：1,050t 実績：885t 達成率： 84 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	全雌化精液の供給は、子持ちアユの効率的生産を通じて県内アユ養殖業の価格競争力を高め、アユ養殖生産量の向上に繋がっている。このため県内生産者から精液供給に対する強い要望がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	平成20年度のアユ養殖生産量478.5 t (全国5位) に比べ、令和6年度は885 t (全国1位) へと増加しており、事業効果が現れている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	全雌化精液を搾出できる特殊な雄アユの生産にあたり、作業方法を見直し、経費の節減を図った。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

民間養殖場で全雌化精液を生産することは、技術面及び施設面の観点から困難であるため、研究所が全雌化精液の生産を続けなくてはならない。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
県内養殖生産車より全雌化精液供給の強い要望があるため、引き続きアユの全雌化精液の供給を実施していきます。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	